

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成三十年一月度 入選句（投稿総数三千五百三十一句・小中学投句数三千八十句）

特選

かるたとりよまれたふだにとびこんだ 大垣市 片岡 渉(小三)

お正月と言えば「かるたとりこま回し・たこ上げ・はねつき」等々昔からの遊び・行事のようなものでしたね。今年も家族や親戚の人達とかるたとりをされたのですね。

「よまれたふだにとびこんだ」という表現から、今年こそはと張り切っていらつしやる様子が目前に浮かび「すばらしい」と同時に目を輝かせかるたとにらめっこしていらつしやる様子がよくわかりました。とつても生き生きと表現され、ひしひしと伝わってきてすばらしい句ですね。

やねにつくこどもつららとおやつらら 大垣市 小田切 あみ(小三)

今年雪は少ないのかなと思われるくらい暖冬と思ってましたね。しかし、冷え込みの厳しい地方は厳しいですね。この辺りは幸いにして暖かい日々でしたので幸せでした。作者は冷え込みの厳しい日にたくさんのつららが出来ているのを発見したのですね。「こどもつららとおやつらら」の表現がすこくすてきです。日頃から、あちこちと見張り心がけていらつしやる様子がよくわかります。自然のよさを体験された作者はすばらしいですね。瞬間をうまくとらえ、表現されたすてきな句ですね。

鴨達が芭蕉とともに赤い橋 大垣市 片山 花菜(小六)

船町灯台のある水門川を散策されていらつしやるのですね。水門川に優雅に鴨達が泳いでいたのでしょうか。赤い橋からの眺めでしょうか。ちょうど鴨達の遊泳と芭蕉翁とが一致したのでしょうかね。その様子をうまく詠まれましたね。「芭蕉とともに赤い橋を渡っている」ように映ったのですね。芭蕉翁も鴨達も優雅な一時でしたね。

秀逸

つうがくるふんでたのしいしもばしら 大垣市 し水 きなり(小二)

バツタくんいぶきのかぜにまけないで 大垣市 柘植 結吏(小二)

おいでよと毛ふがぼくをよびかける 大垣市 竹中 晴(小六)

水たまりたたき落ちるよ冬の雨 大垣市 川瀬 雄大(小六)

白い息君の居場所を伝えてく 美濃加茂市 駒田 悠華(中三)

ねぎを切る音が今年を刻んでく 美濃加茂市 安藤 貴大(中三)

書き初めで部屋がよごれて大そうじ 大垣市 堤 彩奈(小三)

かがみもち三だんばらだなにたべた 大垣市 伊藤 美紅(小三)

さむすぎて体かじかむ初泳ぎ 大垣市 渡辺 開斗(小六)

しんけんな気持ちを右手にかきぞめだ 大垣市 那須 壮真(小六)

入選

かきの木がどんだんのびるおおきいな 大垣市 ささ川 たいき(小二)
 いわしぐもいわしみたいにかんでる 大垣市 小やぶ たける(小二)
 もみの木はふゆになつたらしゅやくだな 大垣市 坂本 怜唯(小二)
 ぼくはしるまけてたまるかいぶきおろし 大垣市 柘植 結吏(小二)
 しぐれてる雲の合間に白い山 大垣市 田中 愛美(小六)
 よーいどん北風につられ走りだす 大垣市 森本 彩乃(小五)
 冬桜あわいピンクで枝かざる 大垣市 西脇 莉里(小六)
 かも三わ雨を気にせず遊んでる 大垣市 出口 心那(小六)
 白い息まっ赤なほほをかくしてる 美濃加茂市 佐橋 心風(中三)
 吐く息の白さ溶けゆく雪の日 美濃加茂市 永原 愛海(中三)

入選

初雪をまた君と見て温まる 美濃加茂市 坂井 千乃(中三)
 木枯に吹かれ染まるは君の頬 美濃加茂市 長瀬 右京(中三)
 外に出て三寒四温待つ子供 大垣市 中村 永遠(小六)
 冬のつきあんまりみえぬ顔だして 大垣市 村若 朋輝(小三)
 とどいたよ友のえ顔の年がじょう 大垣市 高木 聡美(小三)
 ふゆのつきながめていたらとどくかな 大垣市 子安 陸斗(小二)
 絵まを書くゆめがかなうかどきどきだ 大垣市 金森 かほ(小二)
 歩いてる犬の口元息白し 大垣市 酒本 晃輔(小六)
 強い風冬のきびしさおしえてる 大垣市 富田 美咲(小六)

選者吟

咲ききらぬ一輪挿しの冬薔薇

勝

子